



発行者

北海道へき地・複式教育研究連盟
<http://dohekifuku.zenhekiren.net/>

委員長 古田 統
 編集責任者 佐藤 正由
 印刷所 山東印刷株式会社
 夕張郡栗山町中央2丁目245 TEL 0123-72-1151
 題字 書家 濱谷 彩鶴 (はまや さいかく) 氏

新しい時代の 主体的・協働的な学びの具現化に向けて

北海道へき地・複式教育研究連盟委員長 古田 統



令和2年度本連盟事業の締めくくりにあたり、会員の皆様、ご支援を賜りました関係諸機関の皆様に感謝を込めながらご挨拶を申し上げます。

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中において、感染防止への対応とあわせ、子どもの学習機会と学力の保障といった学校の役割が再認識された一年となりました。

本連盟の二大事業でもある全道へき地複式教育研究大会も檜山本大会は「紙面発表大会」として、オホーツクプレ大会は「参加者を制限した分科会」など例年とは違った形での開催となりましたが、「積み重ねてきた研究の歩みを止めない」の思いのもと、各実行委員会および分科会各校の教職員の皆様の熱意とご尽力をいただく中で成功裏に終えることができました。私が参観した今金町立種川小学校をはじめとする各分科会校では、「自分たちで主体的に学習を進めるガイド学習の定着」「自身の考えを深める交流学习」等に取り組み、新学習指導要領の趣旨を着実に具現化している研究実践に心より感謝と敬意を評する次第です。加えて、上ノ国町立河北小学校と滝沢小学

校、北見市立上仁頃小学校と豊地小学校ではICTを使った遠隔授業も取り入れた授業が行われました。そこではより多くの考えを交流し合い参考にする姿が見られたり、前時の学習の振返りにタブレットを活用したりと、ICTの活用や対面指導と遠隔教育とのハイブリッド化による指導の充実が図られ、これからのへき地・複式授業のあり方に大きな示唆を与えていただいたと感じました。

また北海道立教育研究所主催の「これからのへき地・小規模校教育充実研修」【学習指導・学級経営編】【学校経営編】の2つの研修講座にはどちらも募集定員以上の参加者があり、本連盟が共催という立場からも大変うれしく思うところで

す。令和3年度の全道研究オホーツク大会は70回という記念すべき大会です。先人から培い積み上げてきたへき地・複式教育の財産を土台に、その上に新時代の学びを支える教室環境、指導体制にも視野を広げた実践研究の交流の場になることを強く期待しています。

会員の皆様、関係機関の皆様の変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます。道へき・複連情報169号発行にあたってのご挨拶といたします。

令和2年度 会 務 報 告

事務局長 温泉 敏

1 一般活動報告

【5月】

- 8日(金) 令和2年度定期総会 (書面総会)
組織検討委員会中止
- 15日(金) 決議用紙集約
- 18日(月) 令和2年度 定期総会議案及び役員承認の件について
～原案承認・役員承認を各地区へき・複連に報告
- 22日(金) 檜山大会・オホーツクプレ大会の変更した開催方法の周知
- 27日(水) 全へき連 令和元年度第6回理事会
書面(顧問・委員長)
- 28日(木) 全へき連春季総会 書面総会(顧問・委員長・研究部長)
- 29日(金) 全へき連春季総会・第1回理事会
(顧問・委員長・研究部長)
柿崎顧問 全へき連会長 再任
古田委員長 全へき連副会長再任

【6月】

- 17日(水) 全へき連打ち合わせ会議(函館 全へき連参与・全へき連会長・全へき連研究部長・道へき事務局長)
- 23日(火) 第1回常任委員会・令和元年度第2回監査委員会・新旧役員引継
情報誌の年2回の発行に変更の承認
- 24日(水) 全へき連HPの活用等を各地区へ依頼
- 25日(木) 全道大会開催内容変更を道教委に報告
- 26日(金) 道へき・複連情報誌168号発行

【7月】

- 6日(月) 第1回企画委員会/第1回研究推進委員会(ライフオート札幌)
～7日(火) 挨拶回り 道教委・道研・道教大
- 13日(月) 全へき連第2回理事会
～14日(火) (富山 顧問・委員長・研究部長)

【8月】

- 3日(月) 第2回常任委員会
(ライフオート札幌)
- 4日(火) 評議委員会・役員研修会
(ライフオート札幌)
- 5日(水) オホーツク管内教育長部会長および
～6日(木) 会場校市町村教育長挨拶/オホーツク教育局 局長挨拶(委員長・事務局長)

- 11日(火) 道小・道中・道公教 道教委とTV会議(事務局長)
- 17日(月) 道研研修講座「これからのへき地・小規模校教育充実研修【学習指導・学級経営】」共催(顧問・委員長)
- 21日(金) 道中会長挨拶(顧問・委員長)

【9月】

- 11日(金) 檜山大会 今金町立種川小(委員長・事務局長・加藤監査)
- 18日(金) オホーツクプレ大会 北見市立上仁頃小・北見市立豊地小
上仁頃小(事務局長・総務部長)・豊地小(財政部長・小野田監査)

【10月】

- 21日(水) 檜山大会 乙部町立栄浜小(委員長・事務局次長)

【11月】

- 11日(水) オホーツクプレ大会 滝上町立濁川小(総務部長・加藤監査)

【12月】

- 4日(金) オホーツクプレ大会 雄武町立沢木小(委員長・事務局長)
- 9日(水) 檜山大会 上ノ国町立河北小(委員長・事務局長)
- 16日(水) オホーツクプレ大会 佐呂間町立若佐小(研究部長・小野田監査)
- 18日(金) オホーツクプレ大会 湧別町立開盛小(研究部長・事務局次長)

【1月】

- 12日(火) 道研研修講座「これからのへき地・小規模校教育充実研修【学校経営】」共催 → Zoomによる開催(顧問・委員長)
- 25日(月) 第3回常任委員会(ライフオート札幌)

【2月】

- 12日(金) 情報誌169号発行
- 15日(月) 第2回企画委員会/研究推進委員会
～16日(火) (ライフオート札幌 研究部長)

【5月】

- 6日(木) 第4回常任委員会・令和2年度第1回監査委員会(ライフオート札幌)
- 7日(金) 令和3年度定期総会・役員研修会
第1回組織検討委員会
(ライフオート札幌)

2 一般業務報告

本連盟は、これまで地域に根ざした教育を探究するとともにへき地校の教育条件整備を進め、確実に成果を重ねてきました。令和2年度においても、研究、組織、教育条件整備等の課題解決に向け業務を推進してきました。

結成70年の節目から、新たな一步を踏み出した令和元年に続いて、令和2年度も推進するはずでしたが、コロナ禍の中での業務推進となり、例年とは大きく異なる1年となってしまいました。

それでも、連盟が一番大切にしている研究大会は開催方法を変更して実施したり、道研の講座を共催したりと前を向いた活動を推進してきたことから、その概要を記載し報告といたします。

◇ 研究面では、第10次長期5か年研究推進計画の2年目として、第69回全道へき地複式教育研究大会檜山大会を開催いたしました。開催方法を変更したことにより、各3会場それぞれの実施となりました。現地実行委員会、会場校のご努力とご協力により、2年間の実践がしっかりと積み上げられた内容でした。この研究成果が例年のように公開研究会としての発信はできませんでしたが、研究集録によって全道に広がることを期待しています。

また、第70回全道へき地複式教育研究大会オホーツクプレ大会においても檜山大会と同様に10次長計にそった研究、実践が進められました。オホーツクプレ大会も檜山大会と同様、6会場に分かれての実施となりましたが、実行委員会を中心に近隣校の協力体制がとられた大会でした。

次年度は70回記念大会となります。本大会に向けて期待が高まった大会となりました。

◇ 組織面では、学校規模適正配置計画の推進や少子化による児童生徒数の減少から、各市町村においてへき地・小規模校の統廃合が進み、加盟校及び会員の減少が加速しています。令和元年度を最後に統廃合する学校は、全道で20校以上ありました。その流れは今もかわらないといえます。

これに伴い、今後の組織の事業のあり方や財政運営について、組織検討委員会の答申を受け

全道大会の持ち方等を検討し、令和4年度から新たな取組を進めていくこととなり、令和2年度の8月に開催した評議委員会で承認をいただきました。

今年度は組織検討委員会の開始は中止いたしました。これまでと同様課題の解決に向けて継続した取組を進めていきます。

また、未加盟校への働きかけについては、各地区に道へき・複連の発足の趣旨や目的、加盟することのメリット等についての啓発活動を行うなどの意識高揚に向けた取組をお願いしてきました。

◇ 教育条件整備については、3学級4定員や教頭未配置校の解消をはじめ、へき地複式校の抱える諸課題の解決のため、全へき連、道小、道へき複連OB会と連携しながら、関係機関に要請してきました。文教施策懇談会の各課懇談会でも道教委に要望等を伝えることも取り組んできました。

へき地級の改定については、道小理事会等で各管内の代表の方に協力を依頼するとともに、これまで同様、地域の実態に応じた算定であるか、適切な調整点であるかなどの検討に努め、国や道への意見具申を続けていきます。

3 情報関係活動経過報告(概要)

事務局次長 佐藤 正由

5月18日(月)	紙面総会で発行計画を承認
20日(水)	情報168号作成日程の変更
21日(木)	情報168号原稿依頼
6月12日(金)	情報168号原稿〆切
23日(火)	常任委員会:情報誌年2回発行承認
25日(木)	道へき・複連HP更新
26日(金)	情報168号発行・発送
12月3日(木)	情報169号原稿依頼
1月27日(水)	情報169号原稿〆切
2月12日(金)	情報169号発行・発送 道へき・複連HP更新

4 情報関係事業報告

(1) 情報関係

「道へき・複連情報誌」は168号と169号の2回発行し、広報活動に努めました。168号では書面定期総会特集、169号では令和2年度の活動報告

及び全道へき地複式教育研究大会檜山大会やオホーツクプレ大会の報告を掲載しました。今年度は紙面発表とはなりましたが、檜山大会及びオホーツクプレ大会の推進に際してご尽力いただきました檜山へき・複連及びオホーツクへき・複連の皆様をはじめ、情報提供や原稿執筆を賜りました多くの方々に改めて感謝とお礼を申し上げます。

〈各号の主な内容〉

【第168号】

- 令和2年度 道へき・複連書面定期総会特集号
- ・書面定期総会概要報告
 - ・第69回全道へき地複式教育研究大会檜山大会及び第70回全道へき地複式教育研究大会オホーツクプレ大会の内容変更
 - ・道へき・複連組織及び役員の紹介
 - ・各地区役員及び研究推進委員の紹介

【第169号】

- 令和2年度 道へき・複連活動報告特集号
- ・今年度の活動報告
 - ・役員・代議員研究会の概要
 - ・第69回全道へき地複式教育研究大会檜山大会の報告
 - ・第70回全道へき地複式教育研究大会オホーツクプレ大会の報告
 - ・第70回全道へき地複式教育研究大会オホーツク大会に向けて

〈道へき・複連ホームページの内容〉

- 1 概要（要覧 管内担当）
- 2 長期研究推進計画
- 3 各地区研究主題
- 4 道へき・複連刊行物（道へき・複連情報 研究部情報 他）
- 5 実践事例
- 6 全道大会 全国大会
- 7 調査等報告書
- 8 シンボルマーク へき地教師の歌「太陽となろう」

（2）「全国へき地教育研究連盟HP」関係

- ① スムーズな原稿提出と有効な情報ツール
「全国へき地教育研究連盟HP」へ移行して1年6か月が経過しました。会員の皆様のご理解とご

協力により、スムーズな原稿の提出がされています。心より感謝いたします。「全国へき地教育研究連盟HP」は、全へき連とへき地・複式校を結ぶ貴重なツールです。また、複式教育に係わる各種情報が掲載されるとともに、私たちの教育実践を発表し、広く交流できる手立てでもあります。さらに、今後のへき地・複式校の減少を考えると、HPを介しての情報交流は、より多くの読者が、より容易に接する方法とも言え有効です。今年度のHPの管理運営費用（1校300円）については、昨年度と同様、道へき・複連の全へき連会計の中から一括して加盟校数分を支払いました。

〈具体的な手立て〉

- 定期総会、評議委員会での周知
- 各地区の委員長または事務局長へ、HPに関わるデータを送信
- 道へき・複連及び各地区事務局長との連携
- 必要により原稿の確認を各地区事務局等へ送信

② 手続きの流れ

- ア 全へき→道へき：原稿割当
- イ 道へき→各地区：原稿割当
- ウ 各地区→道へき：執筆者報告
- エ 道へき→各地区：依頼文ひな型送信
- オ 各地区→執筆者：依頼文送信
- カ 執筆者→道へき：原稿提出
- キ 道へき⇔執筆者：原稿推敲
- ク 道へき→全へき：原稿提出
- ケ 全へきHP：原稿アップ

※上記については、全てメールで執り行います。

③ 原稿種別、依頼数、地区名、氏名

【令和2年9月～令和3年8月】

- 論評（市町村教育長、各局指導主事等）3本
〈渡島、上川、宗谷〉
 - ・渡島教育局教育支援課義務教育指導班
指導主事 道幸 篤史様
 - ・上川管内当麻町教育委員会
教育長 中村 欣也様
 - ・宗谷管内猿払村教育委員会
教育長 眞坂 潤一様

- 山紫水明(校長) 6本
 〈石狩、上川、宗谷、オホーツク、十勝、根室〉
 ・石狩市立厚田学園 校長 丸山真嗣典様
 ・土別市立多寄小学校 校長 森 広明様
 ・猿払村立浜鬼志別小学校
 校長 高橋 秀人様
 ・北見市立若松小学校 校長 田中 法義様
 ・幕別町立明倫小学校 校長 河井 義徳様
 ・根室市立厚床小中学校 校長 高橋 昭様
- 事務室より(事務職員) 2本
 〈上川、十勝〉
 ・美深町立仁宇布小中学校
 事務職員 丁門 容子様
 ・鹿追町立上幌内小学校
 事務職員 谷口 加奈様
- 保健室より(養護教諭) 2本
 〈オホーツク、十勝〉
 ・雄武町立豊丘小学校
 養護教諭 上西ひかる様
 ・音更町立西中音更小学校
 養護教諭 藤原 実由様
- 研究実践(各校の実践) 9本
 〈後志、胆振、日高、渡島、檜山、上川、留萌、十勝、釧路〉
 ・積丹町立余別小学校 校長 太田 雅則様
 教諭 金澤 保弘様
 ・安平町立遠浅小学校 校長 吉成 透様
 教諭 河野 靖様
 ・平取町立紫雲古津小学校
 校長 小松 和弘様
 ・知内町立涌元小学校 校長 船橋 恭二様
 教諭 中村 友則様
 ・乙部町立栄浜小学校 校長 安田 善紀様
 教諭 井田 智子様
 ・中富良野町立旭小中学校
 校長 嘉屋 裕美様
 ・小平町立鬼鹿小学校 校長 村井 亨様
 ・浦幌町立上浦幌中央小学校
 校長 都鳥 秀史様
 教諭 小池亜沙紀様
 ・釧路町立昆布森小学校 校長 下山 孝善様
- 若者の広場 2本
 〈後志、空知〉
 ・神恵内村立神恵内小学校
 教諭 熊谷 結香様
 ・深川市立多度志小学校
 養護教諭 三浦 奈那様
- 学習指導案 11本
 〈留萌、宗谷、オホーツク、十勝、釧路、根室、石狩、空知、後志、胆振、日高〉
 ・小平町立鬼鹿小学校 教諭 小山はるか様
 ・猿払村立知来別小学校 教諭 平沼 龍様
 ・湧別町立開盛小学校 教諭 本田 学様
 ・本別町立仙美里小学校 教諭 澤井 牧葉様
 ・釧路町立昆布森小学校 教諭 平澤 昌江様
 ・根室市立海星小中学校 校長 濱田 有子様
 ・千歳市立駒里小中学校 校長 布施 裕様
 ・美唄市立南美唄小学校 教諭 木村 睦子様
 ・黒松内町立白井川小学校
 校長 道下 誠様
 ・むかわ町立宮戸小学校 教諭 菊地紗耶佳様
 ・えりも町立東洋小学校 教頭 吉田 貴弘様
- ④ その他
 ア 原稿はA4サイズ1枚程度(1200字程度、写真を含む)とし、研究実践についてはページ数の制限を設けませんでした。
 イ ワード文書で統一しました。道へき・複連及び全へきでの校正作業等がスムーズに行えました。
 ウ 指導案等では、児童の名前を伏せたり、個人が特定されない写真を使用したりして原稿を作成していただきました。個人情報の保護を図りました。
 エ 見やすさ・読みやすさの観点から、写真や図などを配置した原稿を望みます。
 オ 各地区の学校数の全体に対する割合に応じて各地区に原稿数を配分しました。
 *今年度は35本の原稿依頼がありました。各地区には1~4本配分しました。
 カ パスワードによる閲覧方式です。さらに、各地区会員への周知が図られ、情報を有効に活用できるよう啓発をしていきます。
 キ 大会情報や大会報告があれば、随時受け付けて全へき連へ報告します。

令和2年度 総務部報告

総務部長 井上 隆一

めの講師制度の拡大と充実

1 活動報告

- 5月8日 道へき・複連総会（書面開催）
 6月23日 第1回常任委員会
 7月5日 全へき連基本調査配信
 全へき連リンク集調査集約開始
 31日 全へき連調査報告
 全へき連リンク集報告
 8月3日 第2回常任委員会
 4日 評議委員会
 9月11日 第69回全道へき・複研究大会
 檜山大会（分散開催）
 種川小学校（9月11日）
 栄浜小学校（10月21日）
 河北小学校（12月9日）
 18日 第70回全道へき・複研究大会
 オホーツクプレ大会（分散開催）
 上仁頃小学校・豊地小学校
 （9月18日）
 濁川小学校（11月11日）
 沢木小学校（12月4日）
 若佐小学校（12月16日）
 開盛小学校（12月18日）
 1月25日 第3回常任委員会
 5月6日 第4回常任委員会
 5月7日 令和3年度定期総会

2 要請要望活動

〈主な要望～抜粋〉

【教育課程編成、実施及び充実のための条件整備】

「生きる力」を育む教育課程の編成・実施・評価・改善に向けた道独自の条件整備

- ① 3学級4定員、6学級8定員など小規模校における定数改善及び専任教頭の全校配置
- ② 小学校の複式学級における学級編成基準の引き下げ及び中学校複式学級解消のための定数改善
- ③ 中学校における免許外担当の一層の縮減のた

【へき地・複式校、小中併置校、小規模校における条件整備】

- ① 統廃合における人的な配置
- ② 複式指導における児童の学習環境の向上と教員の負担軽減
- ③ 複式学級における教員の実践力向上
- ④ へき地学校指定級見直しに向けた条件整備

以上の要望内容を中心に、「北海道文教施策・予算策定に関する要望活動」「全へき連と連携した要望活動」を道へき・複連事務局と連携し、道小、道中、道公教と一体となって要望事項の実現に向け活動を進めてきました。その中でこれまで同様「へき地校・複式校・小規模校・併置校に関わる」項目において要望を強調しました。今後も、へき地・複式教育の教育環境の向上を目指し、ねばり強く取り組んでいく必要があります。

3 へき地級指定見直しに関する取組

今後も、令和4年1月1日の改定予定に、道教委の動きを注視しながら「地域の実態に応じた算定であるか。」「適切な調整点であるか。」など情報収集に努め、全へき連、道小、道中、道へき複連OB会と連携を深めていきます。

また、組織検討委員会の中でへき地級改定に向けた取組を交流し、各地区のへき地級の改善に向け支援をしていきます。

4 調査活動

- (1) 全へき連基本調査
- (2) 全へき連リンク集調査
- (3) 各地区からの意見書

5 組織検討委員会の活動概要

今年度は実施せず

令和2年度 研究部報告

研究部長 栗田 真

1 研究主題

「主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな子どもの育成」

～児童生徒一人一人が仲間とつながり、地域とともに「生きる力」を伸ばす学校・学級経営と学習指導の充実をめざして～

2 活動の重点

第10次長期5か年研究推進計画の第2年次としての確かな実践研究を行い、地域に根ざした魅力ある教育活動を推進する。

第69回全道へき地複式教育研究大会檜山大会及び第70回全道へき地複式教育研究大会オホーツクプレ大会の開催による実践記録の累積・収集を行う。

3 活動報告

(1) 共同研究体制の強化と実践研究の充実

①企画委員会

- ・構成…研究部長、研究推進委員長、副委員長、部長
- ・開催日…7月6日、2月15日
- ・内容…委員会の運営等について

②研究推進委員会

- ・構成…研究部長、各地区研究推進委員
- ・開催日…7月6～7日、2月15～16日
- ・内容…委員会の役割、全道大会への協力、調査、情報発信等について

③各地区へき・複連研究活動への協力

- ・各地区研究大会等への支援

④未加盟校・小規模中学校への共同研究参加呼びかけ

(2) 第69回全道へき地複式教育研究大会 檜山大会の開催

①大会スローガン

「ふるさと檜山の未来を担う子らに 笑顔かがやく豊かな心と時代を生き抜く学びを」

②大会内容(紙面発表大会)

- ・基調報告…檜山へき地・複式教育連盟
- ・分散会…胆振・後志・留萌地区より提言
- ・分科会…3会場(9月11日、10月21日、12月9日に規模を縮小し分散開催)

③協力内容

- ・分科会での助言

④成果と課題

- ・分科会では、3会場とも「算数科」の授業

公開であった。学習方法が定着しており、リーダーを中心とした主体的な学習が展開されていた。

- ・ICTの積極的な活用により、小規模校のメリットを活かした実践が見られた。

(3) 第70回全道へき地複式教育研究大会 オホーツクプレ大会の開催

①大会スローガン

「オホーツクの大地に育つ子どもへ 未来を切り拓き 夢を実現する学びを」

②大会内容

- ・分科会…6会場(9月18日、11月11日、12月4日、12月16日、12月18日に規模を縮小し分散開催)

③協力内容

- ・分科会での助言

④成果と課題

- ・会場校6校のうち3校が「外国語活動・外国語」の授業公開となり、オホーツク地区の外国語に対する研究意欲と実践レベルの高さを見ることができた。
- ・遠隔授業への積極的な取組も見られた。今後の継続を見据え、通信設備の改善が求められる。

(4) 第10次長期5か年研究推進計画実践と累積

①各地区実践事例の収集

②地区へき・複連教育実践研究資料の蓄積と還流

(5) 研究資料の編集と発行

①道へき・複連「研究部情報」の発行

- ・8月…長期計画の推移、研究組織
- ・2月…全道大会、プレ大会の概要報告

②調査結果と分析

- ・全道複式校の研究分野・課題
- ・全道複式校の学級編制・形態
- ・複式学級を有する学校の指導形態

③HPへの掲載

- ・第10次長期5か年研究推進計画に基づく各地区実践事例

④全へき連への実践資料提供

- ・十勝地区…新得町立富村牛小中学校
- ・宗谷地区…稚内市立増幌小中学校

(6) 教育関係各機関・団体との連携

①北海道教育委員会・各教育局との連携強化

②北海道立教育研究所、各地区教育研究所、北海道教育大学との連携

③全国へき地教育研究連盟との連携

令和2年度 財政部報告

財政部長 田中 貴人

1 令和2年度業務執行について

- (1) 会計業務については、事務局及び各部、各委員会、各地区へき・複連との連携を図り、計画に従って執行しております。
- (2) 道へき・複連会費については、毎年、当加盟会員数の減少により会費収入が減少しておりますが、計画に従って執行することができました。
- (3) 全へき連会計につきましては、負担いただいた分を滞りなく支出することができました。今後、次年度に向けて全へき連への免除申請を行って負担金を決定いたします。また、管理職負担金につきましても、各地区のご協力により入金され、全へき連への送金を終えております。
- (4) 刊行物につきましては、今年度、北海道へき地・複式教育研究連盟結成80周年記念誌の発行に向けてつみ立たてをしております。
- (5) 全へき連発行のへき地・複式・小規模学校からの発信「ふるさとへの誇り」の取組を進めることができました。各地区へき・複連においては発刊の趣旨をご理解賜り、ご協力いただいたことに感謝いたします。
- (6) 運営資金会計は、拠出金の微増となりました。納入された金額の中から規定通り全へき連へ送金いたします。各地区へき・複連のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

2 令和3年度の予算編成について

- (1) 予算編成における収入の見込みについては、学校の統廃合や学校規模の縮小により、今後も学校数・教職員数の減少等が予想され、昨年度以上に厳しい情勢となると思われます。予算編成の基礎資料として、2月中に各地区のへき・複連の加入校数・教員数を調査し、収支予定額を把握した上で予算を編成いたします。各地区の担当者の皆様にはお手数をかけますが、よろしくお願ひします。
- (2) 令和3年度の一般会計については、諸活動の充実に努めるとともに、削減可能な項目をより意識して予算編成を行い、令和3年度総会に提案します。
- (3) 現在執行中の旅費規定は、会員の皆様にご協力いただき圧縮していきたいと考えております。ご協力をよろしくお願ひいたします。
- (4) 全へき連会計及び運営資金会計は、納入される負担金等の範囲内で執行します。また、全へき新聞に代わるHPの運営費については限られた予算の中で対応していきたいと考えております。今後とも、管理職の皆様をはじめ教職員の皆様への納入拡大への働きかけや未加入校の加盟を促すようお願いいたします。
- (5) 刊行物会計については、令和3年度も、本道の実践も盛り込まれた全へき連の刊行物発行が予想されます。各地区へき・複連においては、研究図書を購入として予算付けし、購読促進の取組をぜひお願ひいたします。

令和2年度 一般会計執行状況 (令和3年1月25日見込み)

【収入の部】

項目	令和2年度予算	決算見込	増・減(▲)
会費	2,974,706	3,057,180	82,476
繰越金	336,637	336,637	0
繰入金	600,000	600,000	0
助成金	250,000	280,000	30,000
雑収入	30	37	7
合計	4,161,371	4,273,854	112,483

【支出の部】

項目	令和2年度予算	決算見込	増・減(▲)
研究大会費	460,000	460,000	0
研究調査費	1,620,000	869,890	750,110
研成刊行費	212,000	130,680	81,320
事務局費	1,869,371	1,290,841	▲113,889
合計	4,161,371	2,751,441	1,409,930

学校数：226校

教員数：1450名

【差引残高(1/25見込)】 4,273,854円 - 4,318,513円 = 1,409,930円

第69回

全道へき地複式教育研究大会
檜山大会を終えて

檜山へき地・複式教育研究連盟

〈第1分科会：今金町立種川小学校〉

1 研究主題

自分の考をもち、

主体的・対話的に学ぶ学習指導の工夫

～ともに学び、高め合える算数科の授業づくりを通して～

2 授業について

自校の教員を含め、最大時19名の参観者に囲まれての授業でしたが、子どもたちは終始集中力が途切れず、45分の授業を受けていました。



授業教科は算数で、3年生が3位数×1位数の筆算の仕方を、4年生が2位数÷2位数の筆算を仮商をたてて計算するという内容でした。学習内容は確かに3・4年生のものなのですが、何よりも驚いたのは子どもたちの学習の仕方でした。

上記研究主題における研究は、今年で3年次ということですが、子どもたちに、その3年間での積み重ねの姿が見事に表れ、種川小学校の先生方のこれまでの取組が職員一丸となったものであることを示していました。学習の流れがしっかりと身に付いているため、学年毎に自主的に「何をやる時間を何分」とタイマーを設定し、その時間内で小気味よいほどに学習活動が進んでいきます。

「手がかりになる言葉」や「ヒントカード」を与えられた子どもたちは、それをもとに一人一人が学習を進めていけるのですが、その中で授業者は、課題を投げかけたあと、時に子どもたちの思考に新たな視点を投げかけたり、子どもたちと一緒に考えをまとめたりと、常に子どもが主役となるようにホールの中を動き回っていました。

3 研究協議について

学習方法が子どもたちに身に付いているため、年度始めの臨時休業の中でも個々の子どもたちは、家庭学習で同じ学習方法で単元を進んでいたそうです。そのため、学校再開後も進度の遅れが

なかったといえます。1時間毎の授業を大切にしていることで、自ら見通しをもって学ぶ姿勢が身に付いている子どもたちは、生涯学び続ける力、生きる力をここで身に付けていたということになります。学校の中では、自分の考えを周りの子どもたちに伝え合い討議する力を身に付けていくことで、他者とのコミュニケーション能力も身に付き、社会的な適応力も付いていくことでしょう。

4 最後に

種川小学校の実践から、子どもたちの学習する姿勢に、1時間の授業の構築について教育技術的な問題の協議を行うことは些末なことに思われたのですが、同時に、この毎時間の授業を子どもたちの実態に合わせながら作り変え、より目の前の子どもたちの学力を引き出せるように工夫していくことがいかに大切なことであるかを考えさせられました。

〈第2分科会：乙部町立栄浜小学校〉

1 研究主題

「主体的・対話的で深い学び」

に向かう子どもの育成

～少人数のよさを生かした、算数科の指導の工夫～

2 授業について

授業教科は算数で、3年生が「大きい数のわり算」、4年生が「計算のきまり」でした。



3年生(児童数1名)の授業では、本時のめあてを「計算の仕方を考えよう。」と設定し、 $69 \div 3$ の計算の仕方について考える学習でした。3年生の児童は1名ですが、仮想の友達(たんぼぼさん、ひまわりさん)に対して、「 $60 \div 3 = 20$ 、 $9 \div 3 = 3$ 、合わせて23です。」と説明できていました。また、指導者がたんぼぼさん、ひまわりさん役になって、別のやり方を説明していました。その後、指導者が「似ている所は? 違う所は?」と発問し、児童が「自分もたんぼぼさんも、わられる数の69を分けて考えている。」「自分もひまわりさんも10と1のカードを使っている。」等の説明をし、深い学びにつなげていました。さらに、前時の板書も提示しているので、児童は既習事項との比較もできていました。4年生(児童数3名)の授業では、本時のめあてを「求め方を1つの式に表そう。」と設定し、まず、パワーポイントとTVモニターを使用して○を提示し、計算で○の数を答えさせる問題を提示していました(3×4 、 4×3 、 6×2)。次に、同じタイプの問題でも、1つの式にして答えさせることを意識させる問題を

提示していました（ $2 \times 6 + 1$ 、 $3 \times 4 + 1$ 、 $4 \times 3 + 2$ ）。このように、パワーポイントの提示がスモールステップで進んでおり、それが本時のめあてにつながっていました。その後、児童は問題（○の多くある図）の貼っているホワイトボードに自分のやり方（円で囲んで立式）を記載していました。指導者は、「似ている所と違う所をまとめるように」等、深い学びにつなげるための指示をしていました。間接指導の際、子どもたちが説明（ $3 \times 8 + 1 = 25$ 、 $4 \times 6 + 1 = 25$ 、 $2 \times 12 + 1 = 25$ ）した後、「似ている所と違う所」について協議をしていました。また、子どもたちと指導者で、本時のまとめ（「同じ数ずつのまとまりから1つの式にできる。」「式を見てわかることもある。」）につなげていました。

3 研究協議について（一部抜粋）

- ・パワーポイントを使用して○の数を数えることが本時のめあてにつながっている。
- ・本時の流れをICT機器で提示している点が良い。
- ・前時の板書を提示することで、前時と本時における既習事項のズレを生かすことができる。
- ・振り返りの時間を確保することで、本時のプロセスと成果をまとめることができている。
- ・3年生は1人学年であるが、相手意識、目的意識、評価意識をもって、自分の考えを伝えることができている。1人学年でも主体的・対話的で深い学びができることがわかった。子どもの実態を理解していることが、適切なねらい、手立てにつながっている。
- ・4年生は3人のグループで似ている所、異なる所を協議の中で使用し、深い学びにつなげている。
- ・子どもたちは「振り返りの7つの視点」を理解して発表できている。

4 最後に

栄浜小学校の実践から「振り返りの7つの視点」「深い学びにつながる振り返り」等の研究の土台が共有されているので、小規模校のよさや強みを最大限に生かすことができ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を構築できることがわかりました。

〈第3分科会：上ノ国町立河北小学校〉

1 研究主題

基礎・基本を身に付け、

自ら進んで学習する子どもの育成

～算数科授業における個に応じた指導の工夫～

2 授業について

授業教科は算数で、1年生が「おおきかず」、2年生が「かけ算（2）」、6年生が「順序よく整理して調べよう」、1年生（特別支援学級）が「どちらがひろい」でした。

1・2年生（児童数10名）の授業では、写真を取り入れ、学習の見通をもたせていました。また、授業の流れが構造的で、子ども同士で学び合える環境ができていました。指導者による「算数の言葉で話してみよう。」という指示が子どもたちの意識を高めていました。



6年生（児童数3名）の授業では、Zoomを活用し、滝沢小学校の児童と協働的な学びを構築していました。発表の場面では、ホワイトボードを活用する等、滝沢小学校の児童との対話的な学びにより、本時の目標達成につなげることができていました。

1年生特別支援学級（児童数1名）の授業では、児童の実態に応じた指導ができており、視覚情報優位である対象児童の特長を生かしていました。また、ICT機器を活用して学習の流れを確認させたり、自力解決場面の時間を適切に確保したりしていました。

2 研究協議について（一部抜粋）

【1・2年生】

- ・1年生でもリーダー学習ができており、見通をもって学習を進めることができている。
- ・指導者が児童の考えを引き出せるように支援している。
- ・具体物を効果的に使用している。

【6年生】

- ・事象に着目して順序よく解決させることが意識できている。
- ・遠隔システムを活用すると、発問や説明が一方通行になりがちであるが、一方の指導者が「もう一度、説明してください。」等、アドバイスしており、深い学びにつなげている。
- ・遠隔システムの環境整備ができている点が良い。

【1年生特別支援学級】

- ・子どもが具体物で比較する場面を設定している点が良い。
- ・指導者が児童の実態を踏まえ、身の回りのものを使用することで、主体的に学習に取り組む態度を高めている。

3 最後に

河北小学校の実践から、「学習の流れの統一」「ユニバーサルデザインを取り入れた授業環境の整備」「ICT機器の活用」「児童の実態把握」「数学的な活動の充実」等により、数学的に考える資質・能力を育成できていることがわかりました。

第70回

全道へき地複式教育研究大会 オホーツクプレ大会を終えて

オホーツクへき地・複式教育研究連盟
研究部長 橋本 大

1 はじめに

オホーツクへき地・複式教育研究連盟加盟校は令和2年度現在、2市6町24校が在籍し、活動を続けています。児童数の減少のため、数年おきに閉校する学校がある一方、中規模町村において複式学級の設置が見込まれる学校が現れています。当連盟の実践研究が会員校各校だけでなく、管内校の多くに期待されているところです。

今年度は9月18日に管内6校において第70回全道へき地複式教育研究大会プレ大会を予定しておりました。しかし残念なことに、新型コロナウイルス感染の広がりを受け、予防の観点から実施内容の変更をさせていただきました。

一つは、参加者を管内校のみとしたことです。これに伴い、全道各地の皆様のご意見をいただけなかったことが大変残念です。

もう一つは、開催月日の分散と可能な範囲での授業公開です。長期学校閉鎖による授業進度の調整などもあり、例年通り2本の授業公開ができる学校もありましたが、午後から1本の授業公開となった学校もあります。また、開催日も9月から12月と期間をとった中での開催となりました。

さらに、各開催校では参加者の体温測定や消毒、会場換気、密を発生させない会場設営に心を配ったところです。

こうした取組を経て開催されたオホーツクプレ大会は、全6会場合わせて170名ほどの教職員及び来賓・学校関係者の皆様の参加をいただきました。研究討議では「生きる力」を伸ばす複式授業の在り方について多くのご意見・ご助言をいただくことができました。次年度の本大会に向け、さらに充実を図ってまいります。

最後になりますが、今年度プレ大会の開催にあたり、多大なるご支援・ご協力を賜りました北海道教育庁オホーツク教育局、各市町村教育委員会、会場校、協力校、教育関係団体の皆様に、心

より感謝申し上げます。

2 オホーツクプレ大会の成果と課題

各会場校の開催日、教科は次のとおりです。

第1分科会 佐呂間町立若佐小学校

12月16日 道徳 2・3年生

第2分科会 湧別町立開盛小学校

12月18日 外国語 5・6年生

外国語活動 3年生

第3分科会 滝上町立濁川小学校

11月11日 算数 5・6年生

第4分科会 雄武町立沢木小学校

12月4日 算数 1・2、3・4年生

算数 支援学級、5・6年生

第5分科会 北見市立上仁頃小学校

9月18日 外国語活動 3・4年生

外国語 5年生、6年生

第6分科会 北見市立豊地小学校

9月18日 外国語活動 3・4年生

外国語 5年生、6年生

【成果】

- ・同時間接指導の時間を確保した指導案により、個々の子どもへの助言がよりの確に行われた。
- ・ホワイトボード等の活用により、子どもの考えを交流し、考えを深める授業を展開できた。
- ・子どもが本時の学習課題を設定し、課題解決に向かうことは、主体的な学習に結びついた。
- ・小規模校の特性を生かした6年間を通じた外国語指導は、子どもに十分な技能獲得と自信を付与できる。
- ・遠隔授業による他校児童との合同学習は、子どもが多様な考えに触れることができると共に、小規模校共通の課題解決に繋がる。

【課題】

- ・同時間接指導の時間を生かした指導案の構成と、その時間の中で子どもの主体性を更に伸ばすための工夫について。
- ・少人数学年の学びについて、どのように多様性を持たせ、学習の広がり確保するか。

3 オホーツク大会に向けて

第70回全道へき地複式教育研究大会オホーツク大会を、令和3年9月16・17日に開催いたします。全道にオホーツク複式教育の実践をご覧いただきたく願っております。多数の皆様のご参加を心からお待ちしております。



第70回全道へき地複式教育研究大会オホーツク大会

コロナウィルスの収束を願い、オホーツクの地でお待ちしています

第70回全道へき地複式教育研究大会オホーツク大会 実行委員長 小西 政策



皆さんご存じのように、第69回全道へき地複式教育研究大会檜山大会及び第70回全道へき地複式研究大会オホーツクプレ大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止を鑑み、例年の一斉参集型の研究大会は行わないこととなりました。

オホーツクへき地・複式研究連盟では各分科会場校長と相談しながら、各校の実情に応じた日程、一般参加者の限定、コロナ対策の徹底を図りながら、プレ大会としての意義を高める公開研究会を実施することができました。道研究推進委員並びにオホーツク教育局義務教育指導班指導主事にご助言をいただきながら、次年度への成果と課題を見出すことができました。

12年前の網走大会では、網走地区へき地・複式連盟加盟校は43校あり、8分科会で授業公開をして、研究の成果を交流することができました。しかし、当管内でも過疎化・少子化・学校の統廃合といった厳しい状況は、全国と変わらない状況であり、現在の加盟校は24校と半分近く減少している状況であります。6分科会6校の公開授業を行い、成果と課題を実感できる大会となるよう研究を重ねています。

第70回全道へき地複式教育研究大会オホーツク大会は、全道にとっても節目の大会となります。大会スローガンのもと、オホーツク管内実行委員会一同、実りのある大会となるよう準備を進め、皆様の参加をお待ちしています。

■オホーツク大会スローガン

「オホーツクの大地に育つ子どもへ 未来を切り拓き 夢を実現する学びを」

■開催期日 令和3年9月16日（木）全体会・分散会・記念講演 17日（金）分科会

分科会	会場校	研究主題～副主題～	分野・課題 教科等
第1	佐呂間町立若佐小学校	「自ら学び共に高め合う子どもの育成」 ～「学習ガイド」を活用した間接指導の充実～	学習指導 5 全教科
第2	湧別町立開盛小学校	「グローバル社会で生きる英語力を育む」 ～英語に慣れ親しむ活動の充実と活用する力の育成～	学校・学級経営 2 学習指導 5 外国語
第3	滝上町立濁川小学校	「学び方を身につけ、意欲的に表現・伝え合うことを通し、学びを深める子どもを育む」 ～少人数・複式学級における算数科の授業づくりを通して～	学習指導 4・5・6 算数
第4	雄武町立沢木小学校	「主体的に課題に向かい、対話を通して学びを深める子どもの育成」 ～複式・算数科の授業を通して～	学校・学級経営 1 学習指導 5・6 算数
第5	北見市立上仁頃小学校	「ふるさとに誇りをもち、自分自身を信じ成長し続ける子どもの育成」 ～主体的・協働的な深い学びのある授業を目指して～	学校・学級経営 2 学習指導 5 外国語
第6	北見市立豊地小学校	「ふるさとへ誇りをもち、主体的に学びを深める児童の育成」 ～複式授業の特性を生かした授業づくり・集団づくり～	学校・学級経営 3 学習指導 6 外国語